

研究課題	「わたし」と集団がひびきあえる学習をめざして
副題	～コミュニケーション力を育み、豊かに表現できる子どもの育成～
学校名	和歌山市立小倉小学校
所在地	〒649-6264 和歌山市新庄348番地
ホームページ アドレス	<a href="http://www.wakayama-wky.ed.jp/ogura/">http://www.wakayama-wky.ed.jp/ogura/</a>

### 1. はじめに

本校では、「コミュニケーション力を育み、豊かに表現できる子どもの育成」を目指し研究を行ってきた。その学習過程において体験的活動を多く取り入れ、そこから生まれる具体的な課題を学級集団で解決する学習展開の在り方について研究実践に取り組んできた。本校が考えるコミュニケーション力とは「考えや思いを伝える力・相手の思いや考えを聞く力・コラボレーションによる問題解決力」である。

本年度は、本財団の実践研究助成を受け、これまでの研究を一步進め、ICTを活用した学習場面を取り入れ、さらなるコミュニケーション力の育成を目指すことにした。

### 2. 研究の目的

これまでの学習の発展や新たな学習において ICT 機器の果たす役割や有用性をより明確にしなが  
ら、相手を意識した主体的なコミュニケーションやコラボレーションによる追求活動をしていくな  
かで、子どもたちのよりよい「わたし」を育み、「わたし」と集団が響き合う学習が生まれると考  
えた。

### 3. 研究の方法

4 学年においては昨年度より Skype 等を活用し、他校との交流学習を実現させ、実践研究を始め  
た。この学習では、他校の友達とのコミュニケーションが必然的に生まれてくる。よりうまく伝え  
るためには、どのように工夫したらいいかを考え、相手を意識しながら、楽しく・主体的に展開し  
ていく学習に取り組んだ。また、5 学年では、社会科の「米作り」等の体験的活動や授産施設小倉  
園との交流を新聞にまとめる学習と「くらしと情報」等の学習の展開を 1 つにして取り組んだ。こ  
の実践もより主体的な学習の実現を目指し、毎日新聞社の協力を得て、記者の方に直接ご指導頂き、  
Web 上での新聞作成システムにも取り組んだ。

#### 4. 研究の内容・経過

##### [ 4 学年の取組 ]

##### 重点を置いた取り組み

伝え合う力…ICTを効果的に活用することで、互いの考えを深め合い、コミュニケーション力を高めていけるのではないかと考えた。

#### ①タブレット端末を利用した学習

##### 体育科 指導略案

1. 単元： 走り高とび
2. 本時目標： 3歩のリズムで足を高く上げ、記録に挑戦して楽しむ。
3. 本時の展開

学 習 活 動	○学習支援☆評価
1、場の準備をする。(グループで)	☆協力して、準備が行われているか、観察する。
2、準備運動をする。(グループで)	○自分のめあてを意識して、練習できているか観察する。
3、自分に合った場(高さ)で練習する。	○I P A Dを活用し、映像でフォームチェックを行うようにさせ、必要に応じてアドバイスする。
4、全体の場で、良かった点・工夫した点を出し合う。	○お互いに交代で高さ調整をさせる。
5、再度めあてをもって挑戦する。	○お互いにかかわることを意識する。
6、振り返りカードを書く。	☆3歩のリズムを意識して、記録に挑戦している。
7、片付けを行う。	

#### <デジタルタブレット>

##### ・体育の学習

跳び箱や走り高跳びフォームチェックをグループで行い、自分たちの課題を見つけあった。



##### 総合的な学習 指導略案

1. 単元名 学校紹介『伝えよう 小倉小学校のすてき!』
2. 本時目標 友だちと協力しながら、紹介カードのよりよい表現方法を考えることができる。
3. 本時の展開

学 習 活 動	○学習の支援・☆評価
1. 本時のめあてを確認する。	○自分の思いを相手に伝えるための紹介カードであることを確認させる。
2. 友だちの作った紹介カードについて話し合う。 ・工夫しているところ ・わかりにくいところ	○自分のカードと比較しながら、友だちの工夫やわかりにくいところを考えさせる。 ○話し合ったことを想起させながら、ワークシートにかかせる。
3. 作り直したいところについて考える。	☆作り直したいところについて考えることができる。
4. 発表する。	
5. 自分の紹介カードを作る。	○いろいろな工夫やわかりやすいところを取り入れ、よりよいカードを作らせる。
6. 学習をふり返る。	☆友達のカードの工夫やわかりやすいところを自分のカードに活かすことができる。

#### <スマートホン>

##### ・総合的な学習

ギャラクシーノートのSメモ機能を利用して、他府県の小学校との交流時に発表する学校紹介カードを作成した。



○デジタルカメラで、自分が表したい事柄をいかに表現すればよいのかを考えて、写真を撮影するようになってきている。

○自己紹介カードや学校紹介カードを相手に伝えることで、自分のこと、学校のことを深く知ることができた。

## ②Skype、電子黒板を利用した他校との学習交流

[福島県郡山市立桜小学校・北海道石狩市立紅南小学校との取組]

- ・お互いの県の①自然・気候②産業（農業・工業。水産業）③歴史（お祭・古くから伝わるもの）④観光（伝統工芸を含む）⑤有名人・偉人⑥郷土料理について交流する。発表はパソコンとプレゼンテーションソフトを使用する。

### ☆交流のためのプレゼンテーション作り

PowerPointを利用して各グループが、プレゼンテーションを作成した。PowerPointは、消防署の見学のまとめ、詩作り、点字についてのまとめ等の作成時に経験しているため、デザインやアニメーションを考えながら、自分たちの伝えたいことをまとめることができた。また、確かな情報発信を意識して、調べてもわからない時には、直接関係のある機関に連絡を取り、確認することも学習することができた。



### ☆テレビ会議での交流

テレビ会議では、相手校からの拍手や反応を感じながら発表することができた。

プレゼンテーションを取り入れることで、より相手にわかりやすく伝えようとする意識が高まった。また、交流中、画像や音声途切れ、内容がつかめなかった時は「もう一度言ってください」と相手に伝え、再度繰り返し発表してもらうなどリアルタイムのよさを活かして、自然とコミュニケーションをとることができていた。



☆交流前後の感想や質問を伝え合う。（「キッズコミュねっと」を利用する）



この間はありがとうございました。この間の交流の様子がテレビで放送されたんですよ！新聞にものりました・・・  
そちらでは、今何がはっていますか？こちらでは、やっぱり「なめこ」「こびと」がはっています。

6班 あきひろ、ごお、ふみな、まお

桜小学校からのメール



## [ 5 学年の取組 ]

①単元名 「小倉支局、発信！」

②単元目標

○新聞作りを通して、ICT 機器に慣れ、グループ学習でのコミュニケーション力・表現力を高めることができる。

○新聞社で働く人たちの工夫や苦勞に気づき、新聞の大切さを理解することができる。

③学習の流れ

○第一次 取材の準備をしよう

**書き留める習慣をつけよう**

総合的な学習の時間には、「米作り」・「小倉園との交流」・「わうくらす」等たくさんの体験活動をするので、おぐらノートを作り、感想やもっと知りたいこと等を書き留めさせておいた。これが新聞記事になっていくことを伝えておいた。

**視点をしぼろう**

稲刈り体験では、長靴を履き軍手をつけて鎌で刈っていった。農家の人たちの苦勞を体験できたとともに、コンバインの便利さに気づいたり、合鴨農法に興味を持ったりする子がいた。疑問に思ったことは、本やインターネットで調べメモさせておいた。視点を明確にさせていくことで、レイアウトだけでなく記事自体も本物に近づけさせたいと考えた。

**取材対象を明らかにしよう**

テーマを決めて、グループ活動開始。自分達の新聞のテーマが決まったら、そのグループに分かれ担当記事を何にするか話し合った。（第一回編集会議）

※テーマ1 「運動会」

記事 「大玉ころがし」・「リレー」・「組体操」・「おみやげな  
あに」・「委員会活動」

※テーマ2 「わうくらす」

記事 第1回『犬の能力・習性』（6月12日）

第2回『生き物を飼う前に考えること』（6月21日）

第3回『盲導犬』（6月29日）



第4回『野良犬、捨て犬』（10月3日）

第5回『生きていること(命を感じる)』（10月5日）

※テーマ3「米作り」

記事 「苗作り」・「田植え」・「かかし作り」・「稲刈り」・  
「刈り取ったお米を食べる」

○第二次 取材しよう

**聞き取ったことをメモし、写真を選ぼう**

記事に合った写真を選んでいく。4年生で学習したアップとルーズを意識し、選ばせる。読者がどう思うかを考えさせ、グループで相談する。（第2回編集会議）

運動会で新一年生の子と手を繋いだ時どうだったか、放送担当ではどんなことに気をつけていたか等、担当の記事に合った友達の感想が必要な場合は、もう一度取材させた。

○第三次 記事を作成しよう「LEPUSを使って」

**割付けをしよう**

新聞紙面は、1面あたり、横4コマ×縦5コマの20コマの要素によって成り立っているの、どのスペースにどの記事を入れるかを話し合った。記事と画像をレイアウトしたテンプレート45種類の見本を見ながら話し合い、決定していった。（第3回編集会議）



**文字数を確認し、原稿用紙に記事を書こう**

受け持つ紙面の文字数に合わせて、記事を清書していく。「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どのように」（5W1H）、「昔はどうだった」「今はこうなっている」「これからどうなる」（2T1Y）、「正しく」「簡潔に」「わかりやすく」（3C）等を意識しながら書くようにさせた。

**LEPUS 新聞作成システムを使って記事を作ろう**

パソコンを使って入力開始。字数を考えながら、仕上げた原稿をそれぞれ持ちパソコンを使う時間も譲り合いながら進めていった。入力を終えた子は同じグループの子の様子を見て、グループで仕上げることの大切さを考えさせるようにした。



**グループで読み合い、校正しよう**

試し刷りを囲んでの編集会議。自分が書いた記事は、何度読み直しても字の間違いや表現の不確かさに気づかないことが多いが、友達からは、「この写真では伝わらない」「漢字が間違っている」とより分かりやすい新聞を目指して意見が出た。（第4回編集会議）

また、本活動時に毎日新聞社 j p の取材を受けた。



「毎日新聞社WEB上の記事から」

○第四次 みんなに読んでもらおう

できた新聞を掲示し、感想を話し合った。また、授業参観時にも掲示しておき保護者にも学習の成果を見てもらった。二作目の新聞は、学校のホームページに掲載してもらおうことを目当てにして取り組んだ。

5. 研究の成果・課題

4学年では、遠く離れた学校とメディアを活用した交流学习を行うことで、児童が他者を意識し意欲的に学習に取り組み、その中でコミュニケーション力が育まれ、自ら課題を持ち、より深く追求する学習が実現できた。しかし、相手のことをもっとよく知るために質問をする力や、そこから対話をつなげ話題を広げていく力の必要性を感じた。

せっかくのテレビ会議が一方的な発表のやり取りに終わってしまわないように、共通の課題を設定し、お互いに発表し合うようにする必要がある。そして、活動の場面では、質問する機会を多く持つことがコミュニケーション力をはじめ、さまざまな力を高めることにつながると考える。

5学年では、毎日新聞社協力の「LEPUS 和歌山市教育委員会新聞作成システム」を活用することで、紙面構成の過程が簡略化でき、新聞としての内容や表現についてより深めた学習が実現できた。入力した記事をパソコン室からだけでなく職員室等、別の場所からもすべての記事を読覧できるのもLEPUSの利点である。授業時には目が通すことができなかつた子の記事を読み返し励ますことができたので、グループ・学級全体の進み具合を把握しやすかった。また、本物の新聞が自分たちの手で作成でき、編集会議を通してコミュニケーション力（コラボレーションを含む）、表現力が育成されると共に達成感を持った学習を行うことができた。体験学習を新聞記事に仕上げていくことは、学年はじめに知らせ学習に入っていたが、子ども達は自分の役割を果たすことで精一杯で、写真を撮る余裕がなかった。稲刈り体験では、長靴をはいて鎌で刈り束ねて縛っていく。みんなが

活発に活動するほど稲束が高くなるのがうれしかったのか、汗を流しながら一生懸命取り組んでいた。写真を撮りながらこの作業をするのは難しい。貴重な体験を精一杯させてやりたい願いもあり、結局、体験学習時の写真を撮るのは指導者側の役割になってしまった。しかし、自分が撮影した写真が新聞に載れば新聞作成時にカメラマンの役割も果たすことになる。

さらに、決められた字数内に文章をまとめる作業では戸惑う子が多かった。国語科をはじめ、他教科でも書くことを大切にした授業を心がけているが、十分ではないということだろう。字数を数えやすい原稿用紙に、○字以内でまとめる学習を増やしていく必要がある。

計画では、6学年がテレビ会議で台湾と交流する予定であったが、台湾は9月に学年がスタートすることもあり、交流のタイミングが合わず、本年5月に来校予定で、計画通り実施できなかったのが残念である。

## 6. おわりに

本年度、本財団の助成をいただき整備した電子黒板2台は、交流学習において有効に活用され、相手の表情までわかる等、テレビ会議でのリアルな交流を行うことができた。今後もメディアの特性を活かした学習展開を構成することで、その有用性を明らかにし、相手を意識した主体的なコミュニケーションやコラボレーションによる追求活動を通して、子どもたちのよりよい「わたし」を育み、「わたし」と集団が響き合う学習を追及していきたい。